

株式会社フィックスターズ

2025年9月期 第3四半期決算補足説明資料

2025/8/14

本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものであります。

当該仮説や判断に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等の様々な要因により、実際の業績等は本資料記載の業績予想とは異なる場合があることをご承知おきください。

1

2025年9月期 第3四半期 決算説明

・ 前年同期比で大幅な増収・増益

- ・ 売上高 : 7,073百万円 (前年同期比+21.5%)
- ・ 営業利益 : 2,086百万円 (前年同期比+33.6%)
- ・ 2025年12月に本社移転を予定。現オフィスに対する原状回復費用の再見積等、当期業績への影響を精査中であることから、現時点での通期業績予想は据え置き

・ Solution事業 : 着実な成長を続ける

- ・ 自動車業界および半導体業界向けの高速度サービスを中心に旺盛な需要が成長を牽引
- ・ ストック型収益モデルの構築に向けた取り組みを継続、深化
- ・ 様々なチャネルを活用した積極的な人材採用活動を継続

・ SaaS事業 : 収益化に向けて各事業を推進

- ・ 「Fixstars Amplify」は研究者を中心とした季節変動要因により収益が一時的に減少
- ・ 「Fixstars AIBooster」及び「Fixstars AIStation」の収益拡大に向けて投資を継続

連結損益計算書

主力であるSolution事業の好調が大きく貢献し、前年同期比で大幅な増収・増益を達成。

連結子会社であったSider社を当期2Qに清算したことにより税金負担が一時的に減少（約1.8億円）し、当期純利益は前年同期比で大幅な増加。

(単位：百万円)	2024年9月期 3Q	2025年9月期 3Q		
	実績	実績	前年同期比	通期進捗率
売上高	5,821	7,073	+21.5%	76.1%
営業利益	1,561	2,086	+33.6%	80.2%
売上高営業利益率	26.8%	29.5%	+2.7pt	
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,010	1,627	+61.1%	85.7%
売上高当期純利益率	17.4%	23.0%	+5.7pt	

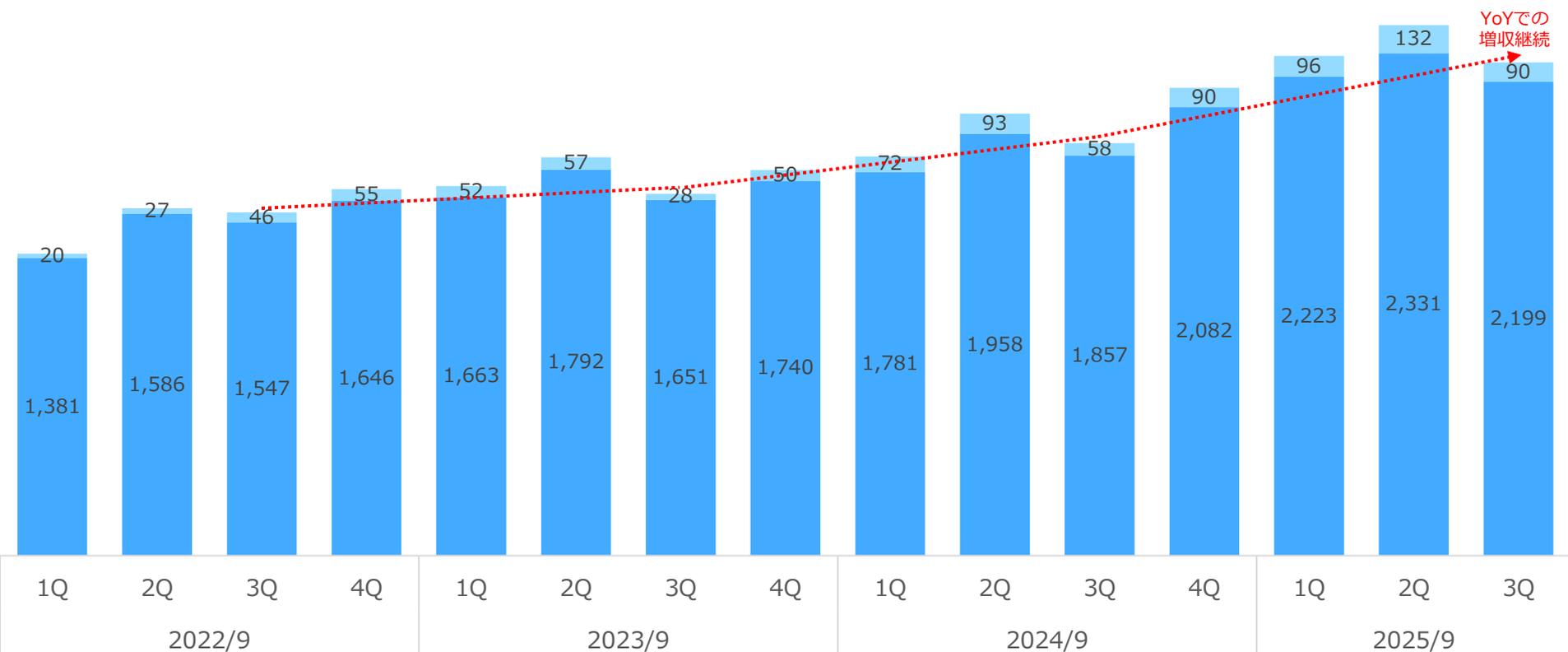
売上高

例年と同様に3Qは一時的に売上が減少するも、4Qでは回復する見通し。

過去の同四半期比では増収を継続。

- SaaS事業
- Solution事業

(単位：百万円)



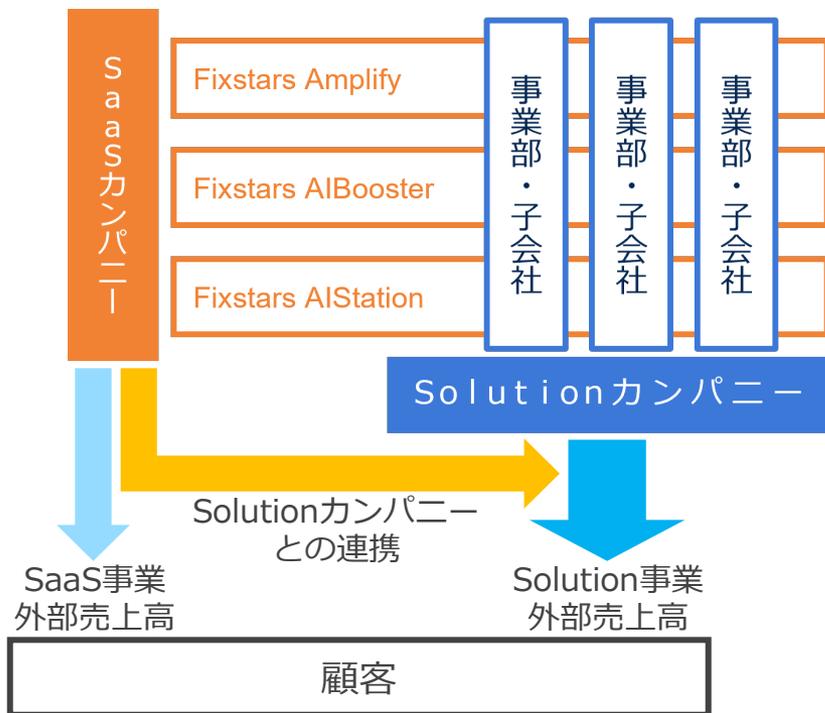
売上高：SaaS関連のストック収益推移

中期経営方針として、ストック型収益拡大への取り組みを強化。

Solutionカンパニーの各組織と連携して、Fixstars Amplify及びFixstars AIBoosterを中心としたSaaS製品の販売を推進中。

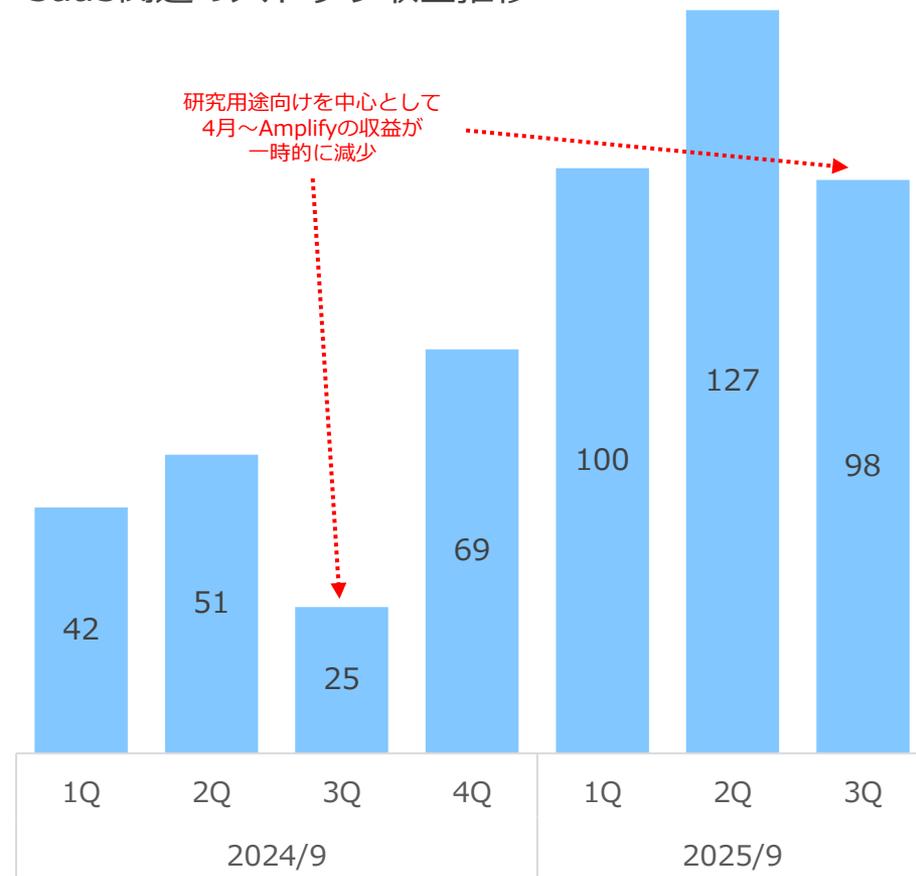
ストック型収益拡大のための施策

Solutionカンパニーの事業部/子会社に
横串でSaaSカンパニーの製品を販売する体制を構築



SaaS関連のストック収益推移

(単位：百万円)



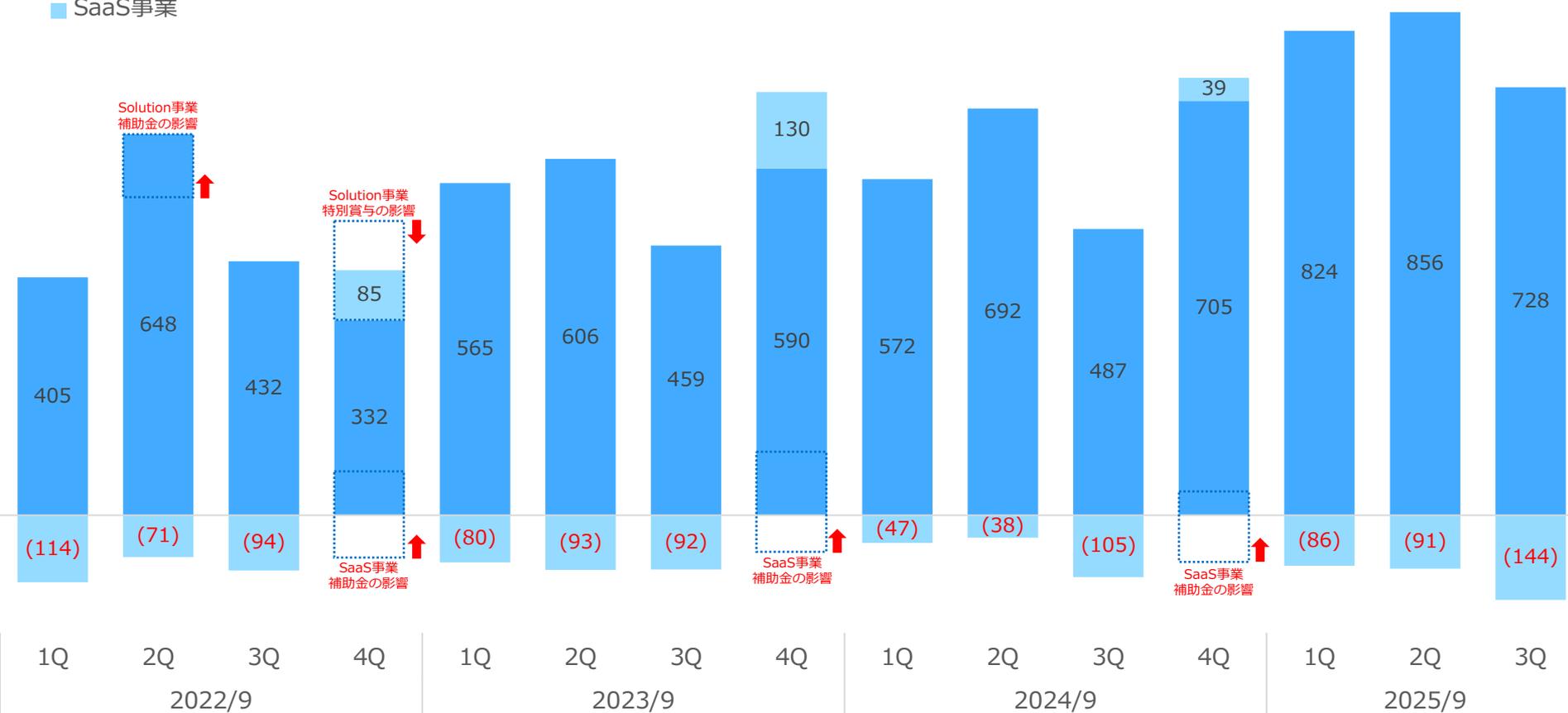
営業利益*

* 主要なセグメントのみを記載

Solution事業において安定的に収益を獲得し、引き続きSaaS事業へ積極的な投資を実施。
売上高と同様に3Qには一時的に落ち込むものの、過去の同四半期比での増益は継続。

- Solution事業
- SaaS事業

(単位：百万円)



売上高・営業利益進捗率*

売上高・営業利益ともに過去の進捗を上回って推移。

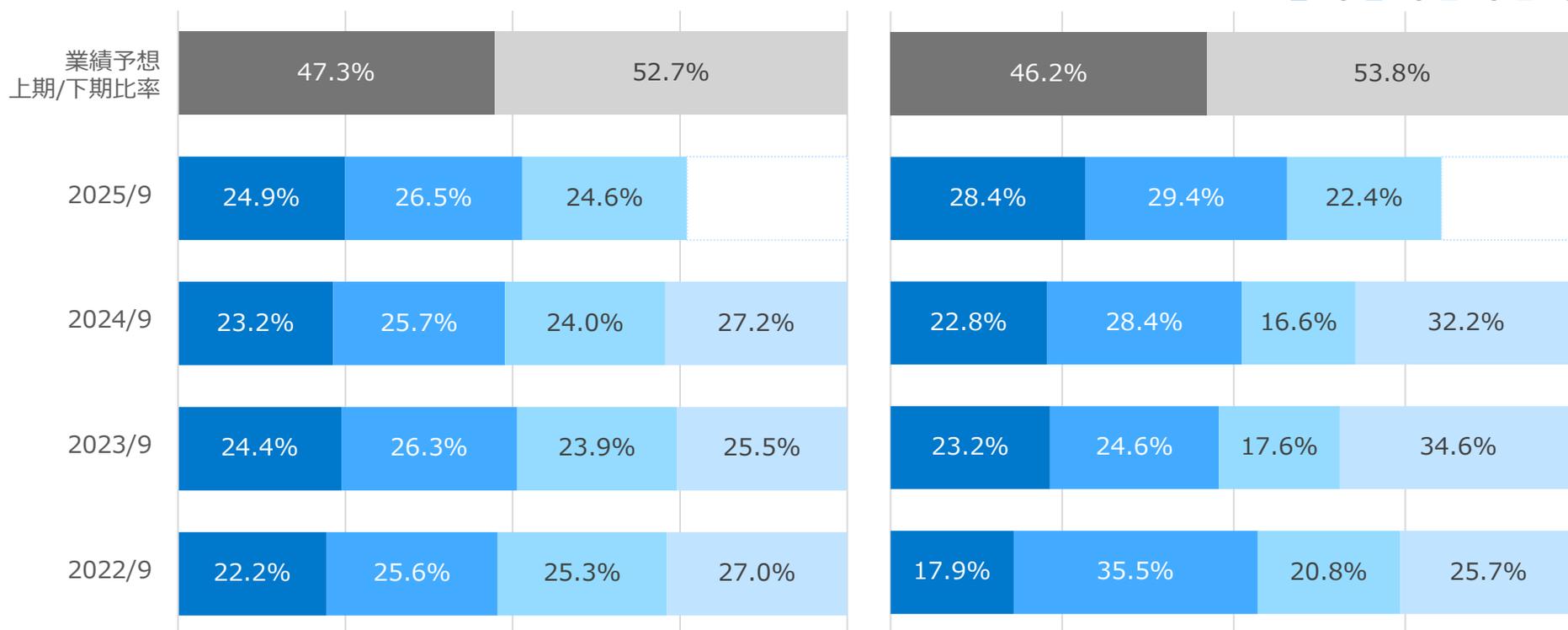
本社移転の決定に伴う当期業績への影響を精査中であり、通期業績予想は据え置き。

* 当期の進捗率：四半期実績値 / 通期業績予想値
 過年度の進捗率：四半期実績値 / 通期実績値
 (小数第二位四捨五入)

売上高進捗率

営業利益進捗率

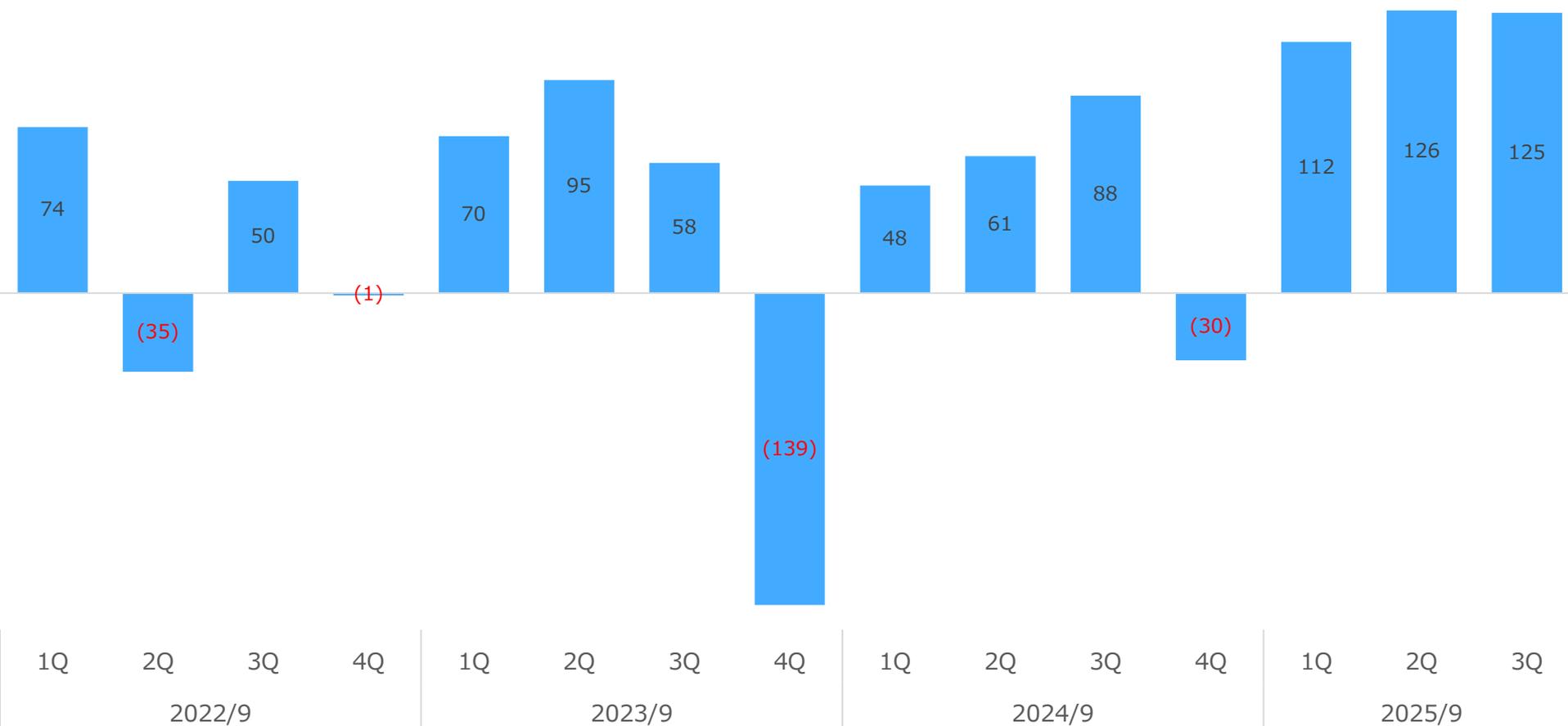
■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q



研究開発費

AI関連事業の研究開発を拡大。量子コンピューティング関連ではNEDO等からの補助金を活用し、費用負担の軽減を図る。
補助金は金額確定後に研究開発費から控除しており、確定した四半期（各期4Q及び2022年9月期2Q）においては研究開発費の計上額が減少。

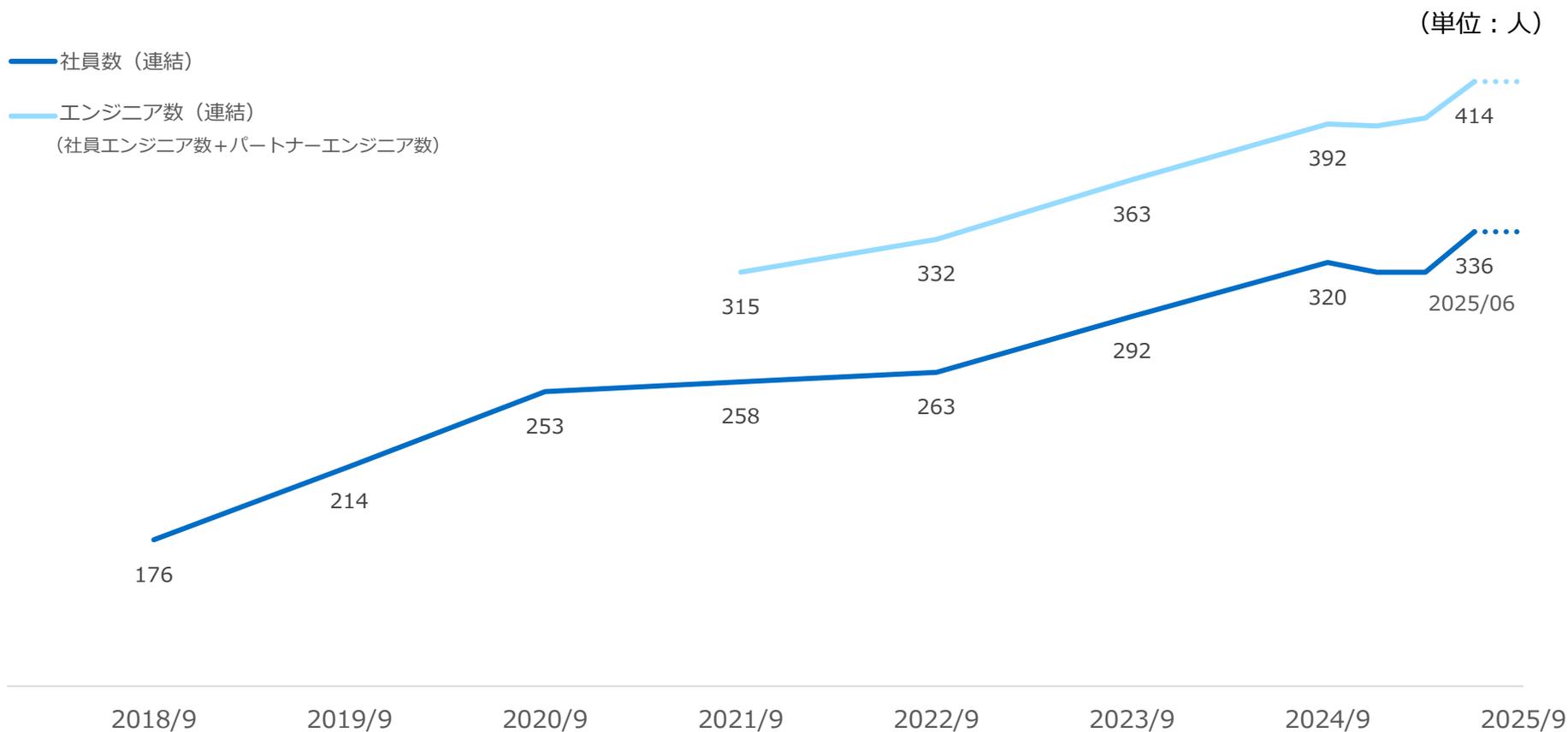
(単位：百万円)



社員数・エンジニア数*推移

* エンジニア数の集計は2021年9月より

採用活動に注力し、様々なチャネルを利用した活動を実施中。
4月の新卒は26名が入社し、当期のエンジニア数は20名程度の純増となる見込み。



2

2025年9月期 通期業績予想

・ 売上、利益とも過去最高を見込む

- ・ 売上高 : 9,300百万円 (前期比 + 16.3%)
- ・ 営業利益 : 2,600百万円 (前期比 + 12.8%)

・ 中期経営ビジョンの実現に向けて

- ・ フロー型収益の持続的な成長を継続しつつ、
フロー案件を入り口としたストック型収益の拡大を図る
- ・ Solution事業とSaaS事業の連携強化
- ・ 「技術」と「経営」がわかる人材育成の継続

連結損益計算書・配当金

4期連続で増収増益（売上高・利益ともに過去最高）を見込む。当期純利益は子会社清算に伴う税負担の一時的な軽減により増加幅が大きくなる見込み。
配当は連結配当性向30%を目安に実施する方針。

(単位：百万円)	2024年9月期	2025年9月期	
	実績	予想	前期比
売上高	7,995	9,300	+16.3%
営業利益	2,304	2,600	+12.8%
売上高営業利益率	28.8%	28.0%	▲0.9pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,494	1,900	+27.2%
売上高当期純利益率	18.7%	20.4%	+1.7pt
1株当たり当期純利益	46.39円	58.98円	+27.1%
1株当たり配当金	14円 + 記念配当5円	18円	+4円 (記念配当除く)

3

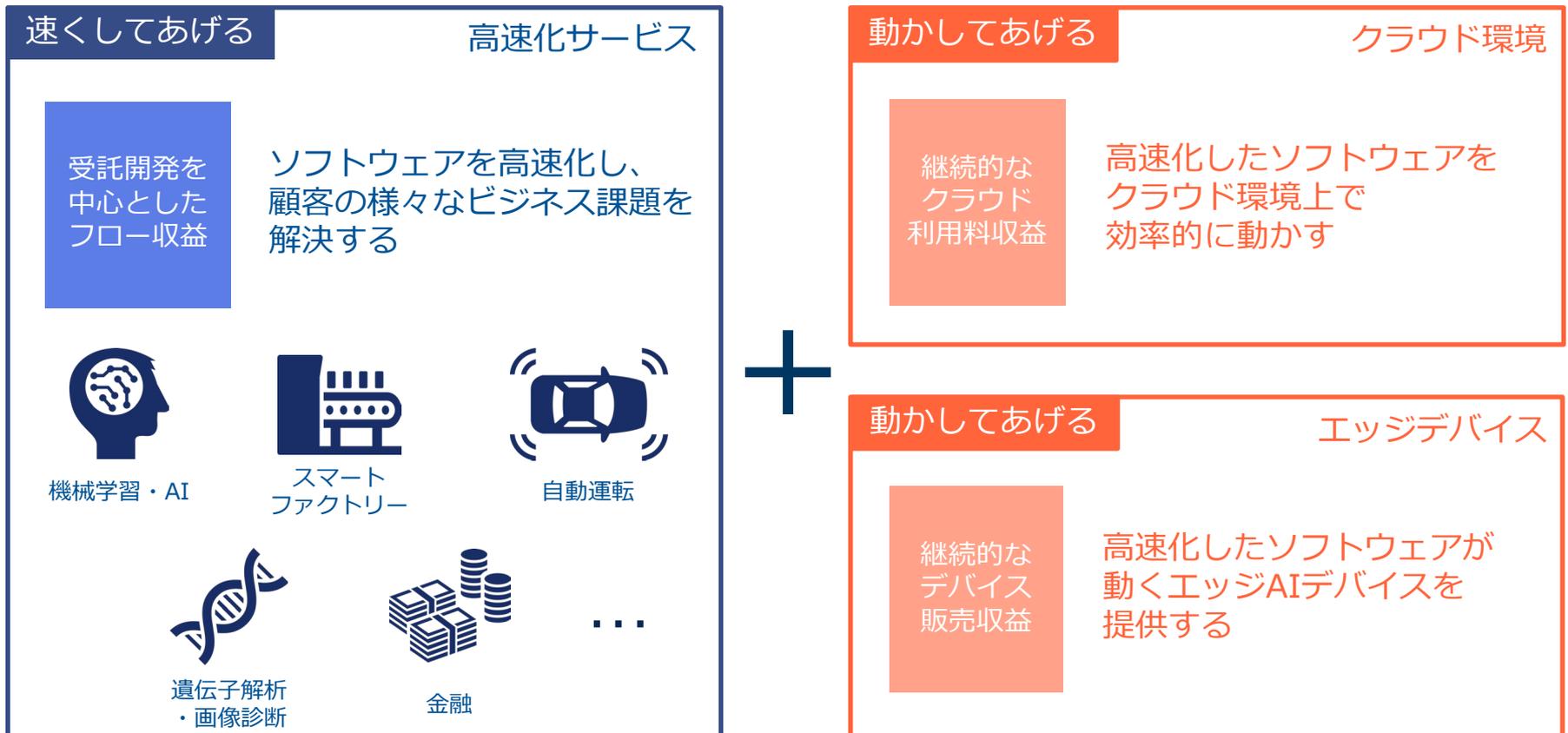
補足資料

3

補足資料① 個別事業の状況

「速くしてあげる」 + 「動かしてあげる」

主力である受託開発（速くしてあげる）を中心としたフロー収益だけでなく、その動作環境も提供する（動かしてあげる）ことでストック収益を拡大し、より強固なビジネスモデルを構築します。

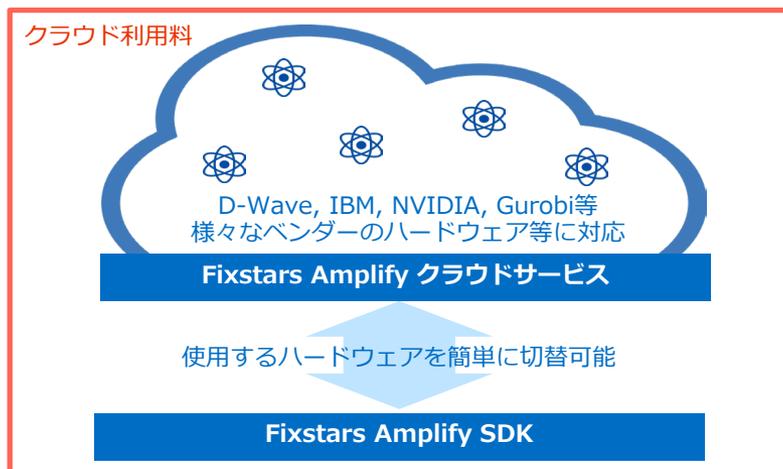


実用化が進む「量子インスパイアードコンピューティング」

量子コンピュータの実用化に先駆け、その計算手法を従来のコンピュータに適用した「量子インスパイアード技術」を活用して、複雑な組合せ最適化問題の解決に貢献。

問題解決のためのコンサルティング・ソフトウェア開発等（フロー収益）とクラウド利用料（ストック収益）の両面で事業を推進しています。

サービス概要



ハードウェアごとの違いを意識する必要がない
より簡単に分かりやすいアプリケーション開発環境



事業の状況

- ☑ ユーザ環境にて設置と運用が可能なオンプレミス版の提供を開始
- ☑ 量子・古典ハイブリッドコンピューティングのための計算基盤 ABCI-Q に Amplify SDK が採用
- ☑ Fixstars Amplify 累計実行回数は 8,000 万回を超え、プラットフォームのデファクトスタンダードに向けて順調に推移

今後の施策

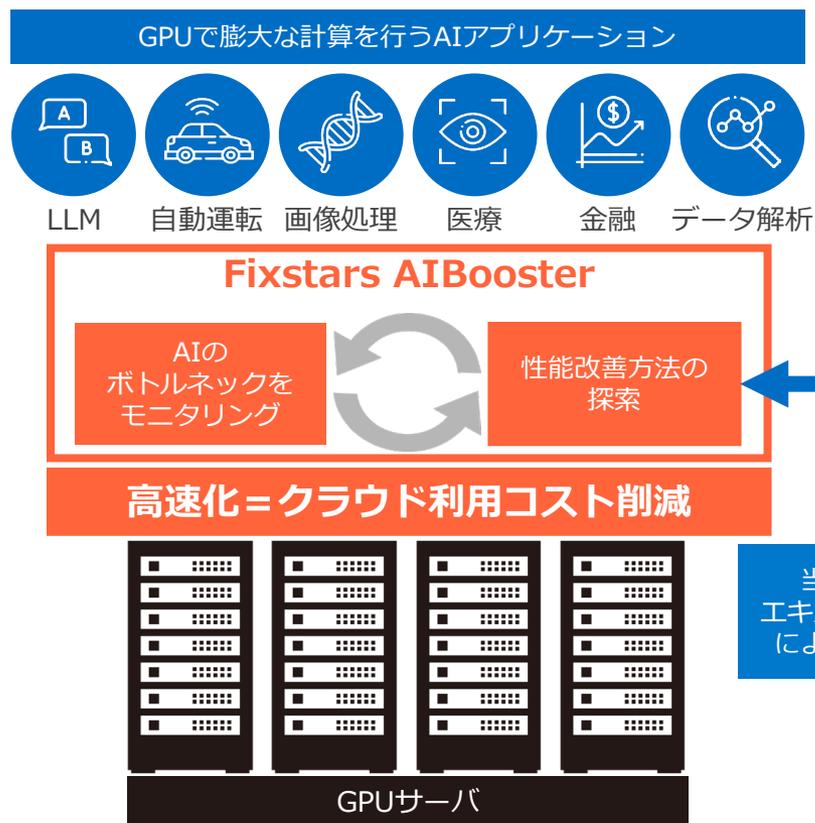
- ☑ Fixstars グループの各サービスとの連携強化に向けて AI ワークロードにおける最適化課題の解決に Fixstars Amplify の適用を検討
- ☑ Amplifyクラウドサービスの拡張を続け、実社会問題への対応領域を広げるとともに、組合せ最適化問題解決のプラットフォームとしてデファクトスタンダードを目指す
- ☑ Fixstars Amplify クラウドサービスの海外展開に向けた活動

コスト効率の高いAI開発・運用を実現する パフォーマンスエンジニアリングプラットフォーム

AI開発・運用の現場において不可欠となっているGPU。その高い計算能力を十分に活用できていないケースは少なくありません。

Fixstars AIBoosterによってGPUをより高効率に活用することで、開発期間の短縮、運用コストの低減を実現し、顧客の製品競争力の強化に貢献します。

サービス概要



事業の状況

- ☑ AI処理の継続的なパフォーマンスデータを可視化できるパフォーマンス観測機能を無料提供するフリーミアムモデルによるユーザ獲得を継続中
- ☑ 自動車業界にフォーカスして Fixstars AIBooster の導入を加速
- ☑ Solution 事業の顧客リレーションを活用し、Fixstars AIBooster の導入を実現

今後の施策

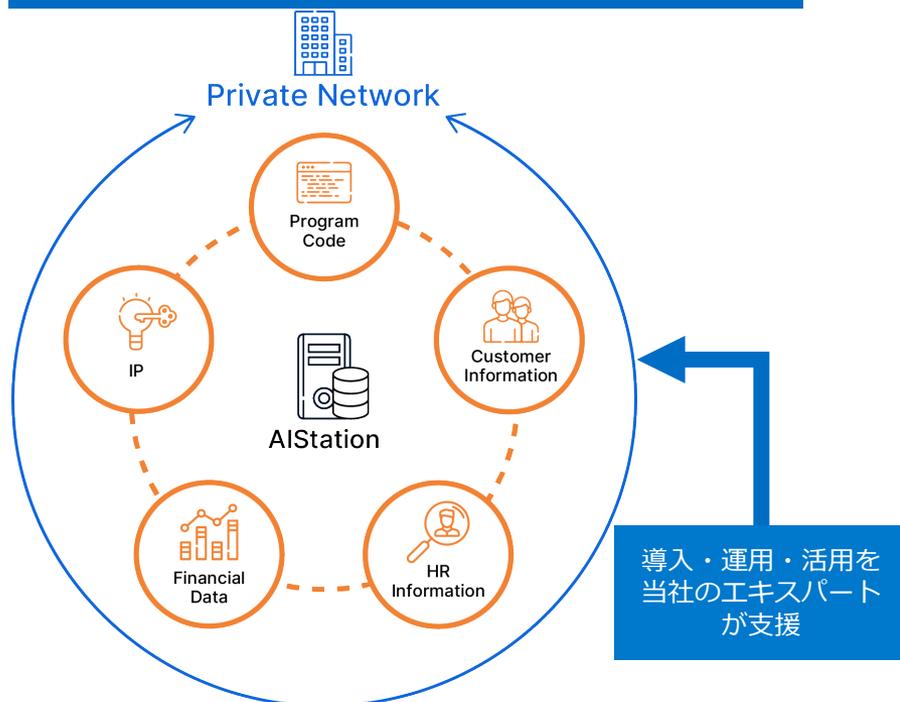
- ☑ 自動車業界を中心としたバーティカル戦略とLLM/AI 基盤向けのホリゾンタル戦略を組み合わせた営業活動を推進
- ☑ SaaS 版 Fixstars AIBooster の提供に向けた開発を強化
- ☑ パフォーマンス改善機能を中心とした製品の機能強化、活用事例の蓄積、知名度向上
- ☑ Fixstars AIBooster の海外展開に向けた活動

届いてすぐにローカルLLMが使えるセキュアなAIオールインワン環境

Fixstars AIStationは、AI処理をすべてローカル環境で実行するため情報漏洩のリスクを減らしつつ最新のAIモデルを活用することができます。また検証された最新のLLM/AIモデルとアプリケーションがセットアップ済みのため、届いてすぐにセキュアAIの利用ができます。

サービス概要

セットアップ済みの専用ワークステーションをレンタルで提供
(ソフトウェア利用料・サポート費用込み)



事業の状況

- ✓ 最新のLLM/AIモデル及び高性能GPUを搭載した「Fixstars AIStation」のレンタル提供を開始
- ✓ 機密性の高い情報を扱うユーザーをターゲットに、「Fixstars AIStation」の導入に向けた活動を展開中
- ✓ GPU最適化エンジン「Fixstars AIBooster」導入済み

今後の施策

- ✓ Solution事業の顧客リレーションおよび販売パートナーを活用した営業活動を強化
- ✓ 検証済み AI モデルの拡充
- ✓ 製品の機能強化、活用事例の蓄積、知名度向上

乳がんAI画像診断支援事業

乳がんの超音波画像に対し、AIを用いて精密検査の要否を高速かつ高精度に判別し、医師の負担軽減を目指します。
乳がんの早期発見を支援し、がん発見後も総合的に患者さんをサポートするサービスを提供していきます。

サービス概要

複数の医療機関でサービス導入に向けた
テスト運用を実施中

医師 / 検査技師



クラウド等での
乳がんAI診断支援

将来的な
診断装置との連動

安心な環境の提供

患者さん



アプリ
による支援

アプリ
による情報提供

METIS Eye
(乳がん超音波画像診断支援)

ePRO¹ / PSP² による患者サポート



事業の状況

- 米国を代表する医療機関、Mayo ClinicとAIモデルの実証実験を開始、海外展開への足がかりに
- 各社の医療用画像管理システム(PACS)とシステム連携中
- 製薬会社向けに、ePRO及びPSPによる、患者サポートを提供

今後の施策

- 各種メディアを通じて「AI乳がん検診」の普及を促進
- 普及に向けてのブランディング強化
- 海外展開に向けた活動

Note: 1) e-Patient Reported Outcomes: ITを活用して、患者の症状や副作用の状況をモニターするシステム

2) Patient Support Program: 疾病やその治療に関する情報提供、多様な患者ニーズへのサポートなどを通じて、患者のQOL向上に寄与することを目的としたプログラム

AI時代を見据えた高性能データセンター

長野県にコンテナ型水冷データセンターの開設準備中。

県からの助成金を活用し高性能データセンターを構築、ストック収益の拡大を目指します。

データセンターの概要（予定）

- コンテナ型データセンター
 大規模な建物設備が不要で設置場所の柔軟性が高く、迅速に構築が可能
- サーバの冷却に水冷方式を採用
 従来の空冷方式に比べ冷却性能・エネルギー効率が
 高く、高性能（高発熱）なサーバの運用が可能



背景・狙い

- 膨大な計算を必要とする生成AI等の発展に伴い、サーバの消費電力・発熱も増大を続ける中、「サーバをいかに冷やすか」が課題になっている
- コンテナ型・水冷方式での商用運用を国内でいち早く開始し、他社に先行して知見を蓄積する
- 顧客ニーズに特化して開発した高速アプリケーションを運用できる体制を整え、データセンター利用料に加えてシステム運用費等の追加収益を獲得する

現状・今後の展開

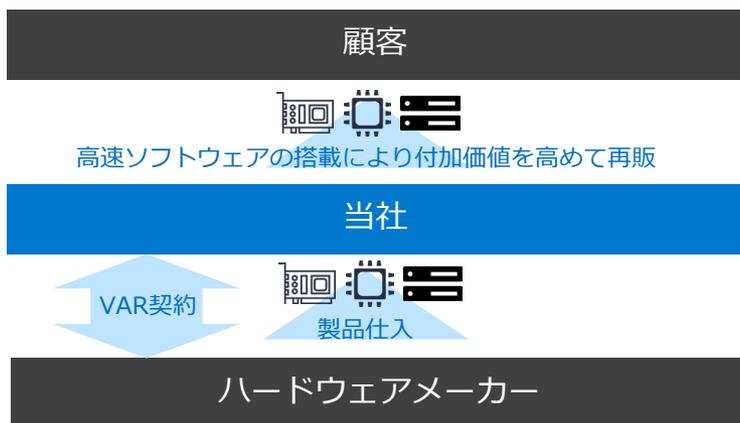
- 水冷サーバの実証実験において業界最高水準の電力効率を達成
- データセンター機材・設備仕様についてパートナー企業との協議に時間を要している状況
 稼働開始予定は2025年9月以降となる見通し
- 2027年9月期にかけてコンテナ設備・サーバ等を中心に約8.4億円の設備投資を予定
 （うち3億円が長野県から助成予定）

VAR (Value Added Reseller) としての取り組み

ハードウェアメーカーの製品に、より付加価値を高めるソフトウェアを搭載して販売する取り組みを行っています。
既に実績のあるAMD-Xilinx FPGAボードのみならず、各種センサーや水冷サーバなど、当社の技術が強みを持つ分野での拡大を目指します。

事業の概要

- ハードウェアメーカーの製品に最適化された高速なソフトウェアを搭載し、より付加価値の高い製品として販売する
 - ・FPGAボード上に高速・高効率な回路を実装
 - ・当社SaaS製品をオンプレミス版として搭載



当社としての狙い

- 製品販売による継続的な収益
エンジニアの人数に依存しない収益モデルを構築する

今後の施策

- AMD-Xilinx FPGAボードの販売拡大



Alveo Accelerator Card Partner Network /
Solution Integrators

- Fixstars Amplifyを搭載したアプライアンスサーバの販売
クラウドが使用できない高セキュリティ環境での需要に応える
- 各種センサー、水冷サーバ等、
新しい商材での事例構築



4

補足資料② フィックスターズについて

高速化のエキスパート集団

フィックスターズは、“Speed up your AI”をコーポレートメッセージとして掲げるテクノロジーカンパニーです。計算資源を最大限に活用するソフトウェア最適化技術を駆使し、AIモデルの推論処理と学習プロセスの両面で圧倒的な高速化を実現する、高速化のエキスパート集団です。

概要

会社名	株式会社フィックスターズ
本社所在地	東京都港区芝浦3-1-1 msb Tamachi 田町ステーションタワーN 28階
設立	2002年8月
上場区分	東証プライム（証券コード：3687）
代表取締役社長	三木 聡
資本金	5億5,446万円（2025年6月末現在）
社員数（連結）	336名（2025年6月末現在）
主なお客様	キオクシア株式会社 ソニー・ホンダモビリティ株式会社 株式会社ネクスティ エレクトロニクス みずほ証券株式会社

グループ体制

株式会社フィックスターズ

Fixstars Solutions, Inc.

100%子会社
米国での営業及び開発

株式会社Fixstars Autonomous Technologies

株式会社ネクスティ エレクトロニクスとのJV
自動運転向けソフトウェア開発に特化

株式会社Fixstars Amplify

100%子会社
量子コンピュータ関連のクラウド事業

株式会社Smart Opinion

連結子会社
乳がんAI画像診断支援事業

オスカーテクノロジー株式会社

連結子会社
ソフトウェア自動並列化サービス

株式会社Fixstars Investment

100%子会社
ベンチャー企業への投資及び育成を行う
投資事業会社

株式会社Drone Autopilot Lab

100%子会社
ドローンの自動運転クラウド事業
※清算中

コンピュータの進歩とともに

ハードウェア技術の進化にいち早く対応し、
その性能を最大限に引き出すソフトウェア開発・高速化サービスとともに成長してきました。

年月	出来事
2002年 8月	神奈川県横浜市に有限会社フィックスターズ設立、その後株式会社に組織変更
2004年 7月	マルチコア技術開発部設立、Cell/B.E.ソフトウェア開発サービス開始
2008年 12月	GPU高速化サービス開始
2009年 12月	「OpenCL入門ーマルチコアCPU/GPUのための並列プログラミング」を出版
2010年 11月	米国空軍研究所に、PlayStation®3を用いた高速クラスタシステムを導入
2011年 10月	FPGA高速化サービス開始
2012年 1月	NANDフラッシュメモリ関連ソフトウェア開発サービス開始
2014年 4月	東京証券取引所マザーズ市場に上場
2016年 11月	東京証券取引所市場第一部に市場変更
2017年 6月	量子コンピュータを手掛けるD-Wave社との協業を開始
2018年 2月	自動運転分野のさらなる拡大を目指し、ネクスティ エレクトロニクス社と合併会社Fixstars Autonomous Technologiesを設立
2021年 10月	量子コンピューティング領域のさらなるサービス事業拡大を目指し、株式会社Fixstars Amplifyを設立
2022年 4月	東京証券取引所の市場再編に伴い、東京証券取引所プライム市場に市場変更
2025年 3月	コーポレートスローガンを「Speed up your AI」に変更

コンピュータの恩恵を人々に

計算機器の性能を最大限に引き出すソフトウェア高速化技術とSDK開発技術を軸に、
コンピュータの活用がより一層進むこれからの世界を支えていきます。

フィックスターズの高効率なソフトウェアが、 クラウドとエッジの両サイドでコンピューティング基盤を支える世界の実現

ソフトウェアを効率的に動かすことで

パーパス

- できなかった計算をできる計算にする
- コンピューティングに必要な消費電力を低減する

コアバリュー

ソフトウェア高速化技術

SDK開発技術

ハードウェア・ソフトウェア両方に対する深い理解・知見

ソフトウェア高速化サービス

当社事業の根幹をなすソフトウェア高速化サービスにおいては、ソフトウェアの最適化やアルゴリズム改良等によりコンピュータの性能を最大限に引き出すことで、大量データの高速処理を実現しています。



オリジナルソースコードのご提供

当社

高速化したソースコード

お客様



コンサルティング



高速化



サポート

- 性能評価
- アルゴリズムの改良・開発
- レポートやコードへのQ&A
- ボトルネックの特定
- ハードウェアへの最適化
- 実製品への組込み支援
- レポート作成

高速化技術による環境負荷低減

当社は、多様な産業分野に対する高速化ソリューションにより電力消費を大幅に抑え、環境負荷低減に貢献しています。

多様な産業分野における高速化ソリューション

Semiconductor

- ・ NAND型フラッシュメモリ向けファームウェア開発
- ・ 次世代AIチップ向け開発環境基盤の開発

Mobility¹

- ・ 自動運転の高性能化、実用化
- ・ 次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

Life Science

- ・ ゲノム解析の高速化
- ・ 医用画像処理の高速化

Finance

- ・ デリバティブシステムの高速度化
- ・ HFT(アルゴリズムトレード)の高速度化

Industrial

- ・ Smart Factory化支援
- ・ マシンビジョンシステムの高速度化

数倍～数百倍の高速度化による
電力消費時間の短縮



Note: 1) 一例として、自動運転向け画像認識処理の高速化（1車種）のみでも、2020年に約14,000トンのCO2削減が見込まれる（当社推計）

高速化に限らない様々な社会貢献

高速化ソリューションによる消費電力削減に加え、自動運転や医療等の様々な分野への支援により、環境や社会の課題解決に貢献しています。

当社事業領域

社会的価値



自動運転の高性能化、実用化
次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

交通事故の根絶
交通弱者へのサポート



AIによる画像診断支援

より気軽でより質の高い
診断・治療へのアクセス



量子コンピューティングによる生産性の向上、労働の効率化

カーボンニュートラルへの貢献

